

# The context of fein @Den\_scoth\_Mn

コンテキスト (context) という言葉について、哲学的に難しく考える必要はないと考えます。関係の中にあるものとか、そういう存在とか、在り方みたいなものを示す言葉なんだなあという雰囲気でもよろしいかと。

先日、Twitter が青い鳥のシンボル (symbol) を破棄するというニュースがありました。

「fein@Den\_scoth\_Mn」というコンテキストを育み、そして見守ってきた青い鳥のシンボルについて、こうして専用のスペースを用意しました。

そして私はこのレポートを「fein's portal」に掲示し、残し続けましょう。

末永く存在し続けることのできる、青い鳥の居場所として。

## なぜこのようなことをしているのか



結論から言えば単なる心情的な問題です。Web サイト制作という意味での実務作業ではありません。だからこそ極めて大切なんですけどね。

私にとってアナザーエデン (最近ではヘブンバーンズレッドも) というゲームも、そして同時に Tweet してきた魚たちとの出逢いも大切なものです。

だからいろんなことをレポートにして書き残しているわけで、その作業は私自身にとって、非常に重要な意味を持ちます。

そしてその作業の結果を Web に残していく。これは言葉通りの意味で日記をつけることと同義と言えるでしょう。

この作業を通して、fein は関係性の中で形を作り、その輪郭を保ち続けてきました。

そしてこのプロセスの傍らに居続けたシンボルが Twitter の青い鳥であり、それを忘れてしまうと fein の形のどこかがぼやけてしまうだろう。

そう考えているから、このようなことをしているのです。

# The context of fein @Den\_scoth\_Mn

## なぜいちいち言語化するのか



こんなふうに Web サイト制作をやっていると誤解されるのが普通かと思いますが、私は文系の人間です。

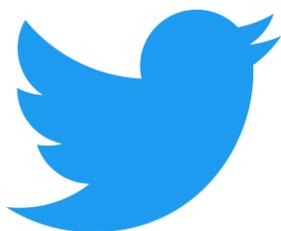
うんちくな理屈をここに書く必要はないものの、人間にとって「識字能力」というのは大切なことだと私は考えています。

なぜ青い鳥が失われることに懸念を感じているのか。

なぜ青い鳥の居場所を作ろうという気持ちになっているのか。

このようなことを言葉として書き残し、自身が感じていることを明確にする。これによって自分がやるべき具体的な行動が、次のように見えてきます。

1. 自分には Twitter 社をどうこうすることはできないが、Twitter の現状にはある程度の理解を示しつつも、E ロンの試行錯誤に付き合うつもりはない
2. しかし、fein は残したいから、Web サイトを作ってそこにデータの引越しを行った
3. 続いて青い鳥まで消すというニュースがあった
4. この青い鳥は fein の輪郭を作るとき、いつもそばにいたシンボルだ
5. そのシンボルが消えると、fein のどこかがぼやけてしまうだろう
6. fein の一部として、あの青い鳥とこれからも共に過ごしていくためにベストな方法はなんだろう
7. この Web サイトの中に普通にに入れてあげて、レポートと一緒に保管すればいいということなんです。



こうすれば青い鳥が消えてしまうことで fein のどこかがぼやけてしまうことはありません。

私は確かに Twitter からデータを引き上げましたが、それは E ロンの作るシステムに思い出深いデータを残したくないだけであり、Twitter にも青い鳥にも恨みはありません。

E ロンが青い鳥を捨てるならそれでも良いでしょう。

しかし、私は共に過ごした自分の青い鳥を救い出し、この Web サイトの一員として、今後も共に歩いていくという確かな意思を持っています。

# *The context of fein @Den\_scoth\_Mn*

## 今後のスケジュール

ここで少し現実的な話を書きましょう。この青い鳥は旧 Twitter 社のロゴです。私のものではありません。この側面については次のように段階的対応としていきます。

「Twitter=青い鳥」という人々の認識が消えるまでは、Web サイトのトップページへ Twitter リンクとして機能させていきます。そして人々がこの青い鳥を忘れ去ったとき、Web サイトのトップページから青い鳥を大切にしまい込みます。

しかし、このレポートだけは残し続けます。

「The context of fein@Den\_scoth\_Mn」というこのレポートは、他のアナデンレポートと同じように私の文章です。Web サイトの権利表記のところに旧 Twitter 社に関するものも掲載しているので、私が旧 Twitter 社のデザインを悪用しているわけではありません。

私と青い鳥の思い出を書いているだけの、ただの稚拙な感想文なのでから。

加えてこの Web サイトにアフィリエイトは存在せず、私は利益を得ていません。

やがて…誰も青い鳥に注目しなくなるでしょう。

しかし、この Web サイトが将来的に「魚サイト」になったときにも、青い鳥は「fein@Den\_scoth\_Mn」という存在を共に作った仲間として、私の「Twitter 体験感想文」と共に住んで頂く未来が確約されているのです。



このレポートは今後もしばしば加筆修正をしていきます。  
青い鳥に感謝と経緯を込めて…